

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の下線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選べ。

- (1) ① 安らかに成仏（せいぶつ）してください。
② 貸し借りを相殺（そうさつ）する。
③ 規則を遵守（そんしゅ）する。
④ 修理費を工面（こうめん）する。
⑤ 父は団塊（だんかい）の世代に属する。
- (2) ① 虚空（こくう）を見つめる。
② 任務を完遂（かんつい）する。
③ 晩年は市井（しい）の人として暮らした。
④ 田中先生が逝去（せつきょ）された。
⑤ 先人の業績を礼賛（れいさん）する。
- (3) ① 両社合併すると専（かたわ）らのうわさだ。
② わが子のように慈（なつか）しむ。
③ 追放を免（のが）れる。
④ 彼は世情に疎（うと）い。
⑤ 人間関係が煩（うたが）わしい。

問題2 次の下線部を漢字に直したもの（送り仮名を含む）が正しいものを一つずつ選べ。

- (1) ① 日差しをサエギル（障る）。
② 彼女の生き方にアコガレル（麗れる）。
③ 資金がトボシイ（貧しい）。
④ 壁に行く手をハバマレル（阻まれる）。
⑤ 不信感がツノル（集る）。
- (2) ① 人事イドウ（移動）で総務課にうつる。
② 父の兄であるオジ（叔父）を訪ねる。
③ 土のうを積んで水のシンニユウ（浸入）を防ぐ。
④ 映画をカンショウ（観賞）する。
⑤ 利益をツイキユウ（追及）する。
- (3) ① カコク（過刻）な労働条件をしいられる。
② シュヨウ（腫瘍）を摘出する。
③ イカン（遺憾）の意を表する。
④ シンラツ（慎辣）な意見を述べる。
⑤ ユウカイ（誘怪）事件を捜査する。

問題3 次の下線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選べ。

- (1) 教科書にジュンキョした問題集。
- ① 警察官がジュンシする。
 - ② ジュンスイな心の持ち主。
 - ③ 入念にジュンビする。
 - ④ 聖地をジュンレイする。
 - ⑤ ジュンバンがくるまで待つ。
- (2) 鳩は平和のショウチョウといわれる。
- ① ショウトツ事故を起こす。
 - ② ショウサイを教えてください。
 - ③ 左右タイショウの図形。
 - ④ 友人をショウタイする。
 - ⑤ 第一インショウが悪い。

問題4 次の語句の意味として正しいものを一つずつ選べ。

- (1) 海千山千
- ① 敵対する者同士が場所や境遇を共にすること。
 - ② 世の中のことを知り尽くして、ずる賢く、一筋縄ではいかないこと。
 - ③ 異なるものが助け合って互いに存在し、互いに繁栄すること。
 - ④ 向こう見ずにまっしぐらに突き進むこと。
 - ⑤ いったんやると口に出したことは必ず実行すること。
- (2) 我田引水
- ① 学問や道徳の向上に励むこと。
 - ② 行いが正しくきちんとしているさま。
 - ③ 頑固で意地っ張りなこと。
 - ④ 自分に都合がよいように取り計らうこと。
 - ⑤ 待ち焦がれるさまのたとえ。
- (3) 羊頭^く狗肉
- ① 周りの人のことは考えず、自分勝手にふるまうこと。
 - ② 飾り気がなくまじめで、心がしっかりしていること。
 - ③ 大勢の人が口をそろえて同じことを言うこと。
 - ④ 見かけは立派でも実績が伴わないことのたとえ。
 - ⑤ ことば巧みに人をだますことのたとえ。
- (4) 諸刃^{もろは}の剣
- ① 人の世の富貴や栄華のはかないことのたとえ。
 - ② どれも似たり寄ったりで、たいして能力に差がなく、抜きん出て優れた人がいないこと。
 - ③ 何事も失敗しないように前もって準備しておくことが大切だということ。
 - ④ 相手の意のままになるしかない状態のたとえ。
 - ⑤ 一方では役に立つが、他方では害をもたらす危険性もあるということ。

(5) 枯れ木も山の賑にぎわい

- ① つまらないものでもないよりましで、いくらかは役に立つことのたとえ。
- ② 何もない、もとの状態に戻る。
- ③ 努力してきたことが報われず無駄になる。
- ④ 隠していた本性や正体などがわかってしまう。
- ⑤ あっても役に立たず、邪魔になるだけのもの。

問題5 次のうち「中途半端で役にたたないことのたとえ」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 暖簾のれんに腕押し
- ② 鴨かもが葱ねぎを背負しよって来る
- ③ 帯たすきに短し襷たすきに長し
- ④ 閑古鳥が鳴く
- ⑤ 馬子にも衣装

問題6 次のうち「苦勞して勉強に励んだ成果」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 論語読みの論語知らず
- ② 蛍雪の功
- ③ 闇夜ちやうちんの提灯
- ④ 臍ほぞを嚙かむ
- ⑤ 三顧の礼

問題7 次のうち「身分、社会的な地位・階級」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① スバック
- ② フォーマル
- ③ ロイヤリティー
- ④ ポテンシャル
- ⑤ ステータス

問題8 次のうち「去就」と同じ意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 更迭
- ② 離脱
- ③ 進退
- ④ 送別
- ⑤ 帰省

問題9 次のうち「貫徹」と反対の意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 撤収
- ② 崩壊
- ③ 開始
- ④ 挫折
- ⑤ 墮落

問題 10 次のうち下線部が慣用表現として正しいものを一つ選べ。

- ① 彼は押しも押されもせぬスポーツ界の大スターだ。
- ② 主人公の言葉が心の琴線に届いた。
- ③ 私の絵は所詮、下手の物好きです。
- ④ 挑戦する前にしっかりと足場をならしておくことが大切だ。
- ⑤ こちらの案を採用して、相手に一泡食わせてやろう。

問題 11 次のうち敬語表現として正しいものを一つ選べ。

- ① ご注文を承り致しました。
- ② 奥様のお料理、おいしくいただきました。
- ③ 先生、来週の懇談会の開始時間はもううかがいましたか。
- ④ 私がお客様のもとに商品をお届けになります。
- ⑤ 私の母が先生のご自宅にいらっしゃるそうです。

問題 12 次の記述に当てはまる人物として正しいものを一つ選べ。

この人物は、明治31年広島県生まれ。はじめは画家を志すが、のちに文学に転向した。同人誌「世紀」に参加し、「幽閉」(のちに「^{さんしゅうお}山椒魚」と改題)を発表した。代表作に、広島に投下された原子爆弾によって被爆した人々を題材とした小説「黒い雨」がある。

- ① 井伏鱒二
- ② 遠藤周作
- ③ 大江健三郎
- ④ 武者小路実篤
- ⑤ 横光利一

問題 13 次の文章は、ある人物が自身のことを著した随筆の一部である。この人物として正しいものを一つ選べ。

年の暮^{くれ}の事で今年も例のように忙しいので、まだ十三四日^{にっし}の日子を余して居るにもかかわらず、新聞へ投書になった新年の俳句を病牀^{びょうしょう}で整理して居る。読む、点をつける、それぞれの題の下に分けて書く、草稿へ棒を引いて向うへ投げやる。それから次の草稿へ移る。また読む、点をつける、水祝^{みずいけい}という題の処^{ところ}へ四五句書き抜く、草稿へ棒を引いて向うへ投げやる。同じ事を繰り返して居る。夜はわずかに更けそめてもう周囲は静まってある。

- ① 二葉亭四迷
- ② 石川啄木
- ③ 森鷗外
- ④ 中原中也
- ⑤ 正岡子規

第2問 次の文章を読んで、後の各問いに答えよ。

(恋愛事件のために東京の地位ある家を出奔した十九歳の青年は、出会った周旋人に坑夫にならないかと誘われるまま鉱山を訪れる。鉱山を案内されているうち、劣悪な環境と粗野な坑夫たちを目の当たりにして嫌気がさす。坑道を進むうちに案内人とはぐれてしまい、一休みしようと俵に腰かけた。)

「何を為やがるんでい」

鋭い声が穴一杯に響いた。自分の耳には敲き込まれる様に響いた。高い影は大股に歩いて来る。

見ると、足の長い、胸の張った、体格の逞しい男であった。顔は脊の割に小さい。その輪廓が稍判然する所まで来て、男は留まった。そうして自分を見下した。口を結んでいる。二重瞼の大きな眼を見張っている。鼻筋が真直に通っている。色が赭黒い。(ア) ただの坑夫ではない。突然として云った。

「貴様は新前だな」

「そうです」

自分の腰はこの時既に俵を離れていた。何となく、向うから近附いてくる坑夫が恐ろしかった。今まで一万余人の坑夫を畜生の様に軽蔑していたのに、——誓って死んでしまおうと覚悟をしていたのに、——大股に歩いて来た坑夫が忽ち恐ろしくなった。然し、

「何でこんな所を迷子ついでるんだ」

と聞き返された時には、稍安心した。(A)

「実は昨夕飯場へ着いて、様子を見に坑へ這入ったばかりです」

「一人でか」

「いいえ、飯場頭から人を付けてくれたんですが……」

「そうだろう、一人で這入れる所じゃねえ。どうしたその案内は」(B)

「先へ出ちまいました」

「先へ出た？ 手前を置き去りにしてか」

「まあ、そうです」

「太え野郎だ。よしよし今に己が送り出してやるから待ってろ」

と云ったなり、又鑿と槌をかあんかあん鳴らし始めた。自分は命令の通り待っていた。この男に逢ったら、もう一人で出る気がなくなった。死んでも一人で出て見せると威張った決心が、急に何処へか行ってしまった。自分はこの変化に気が附いていた。(イ) それでも別に耻かしいとも思わなかった。人に公言した事でないから構わないと思った。その後人に公言した為に、遣らないでも済む事、遣ってはならない事を毎度遣った。人に公言すると、しないのとは大変な違があるもんだ。その内かあんかあんが己んだ。坑夫は又自分の前まで来て、胡坐をかきながら、

「一寸待ちねえ。一服やるから」

と、煙草入を取り出した。茶色の、皮か紙か判然しないもので、股引に差し込んである上から注1 筒袖が被さっていた。坑夫は旨そうに腹の底まで吸った煙を、鼻から吹き出している間に、短い注2 羅宇の中途を、煙草入の筒でぼんと払いた。小さい火球が注3 雁首から勢いよく飛び出したと思ったら、坑夫の草鞋の爪先へ落ちてじゅうと消えた。坑夫は殻になった煙管をぷっと吹く。羅宇の中に籠った煙が、一度に雁首から出た。坑夫はその時始めて口を利いた。(C)

「御前は何処だ。こんな所へ全体何しに来た。身体つきは、すらりとしている様だが。今まで働

いた事はねえんだらう。どうして来た」

「実は働いた事はないんです。が少し事情があって、来たんです。……」

とまでは云ったが、坑夫には愛想が尽きたから、もう、帰るんだとは云わなかった。(ウ)とは猶更云わなかった。然し今までの様に、腹の内で畜生あつかいにして、口先ばかり丁寧にしていたのとは大分趣が違ふ。自分はただ洗い攫い自分の思わくを話してしまわないだけで、話しただけは真面目に話したのである。すこしも裏表はない。腹から丁寧に答えた。坑夫はしばらくの間黙って雁首を眺めていた。それから又煙草を詰めた。煙が鼻から出だした真最中に口を開いた。

④

自分がその時この坑夫の言葉を聞いて、第一に驚いたのは、彼の教育である。教育から生ずる、(エ)感情である。見識である。注4熱誠である。最後に彼の使った漢語である。——彼れは坑夫などの夢にも知りよう筈がない漢語を安々と、あたかも家庭の間で昨日まで注5常住坐臥使っていたかの如く、使った。自分はその時の有様をいまだに眼の前に浮べる事がある。彼れは大きな眼を見張ったなり、自分の顔を熟視したまま、心持頸を前の方に出して、胡坐の膝へ片手を逆に突いて、左の肩を少し聳して、右の指で煙管を握って、薄い唇の間から奇麗な歯を時々あらわして、——こんな事を云った。句の順序や、単語の使い方は、慥かな記憶をそのまま写したものである。ただ語声だけはどうしようもない。——⑤

「亀の甲より年の功と云うことがあるだらう。こんな賤しい商売はしているが、まあ年長者の云う事だから、参考に聞くがいい。青年は情の時代だ。おれも覚がある。情の時代には失敗するもんだ。君もそうだらう。己もそうだ。誰でもそうに極ってる。だから、察している。君の事情と己の事情とは、どの位違ふか知らないが、何しろ察している。答めやしない。同情する。深い事故もあるだらう。聞いて相談になれる身体なら聞きもするが、注6シキから出られない人間じゃ聞いたって、仕方なし、(オ)。おれも……」

と云い掛けた時、自分はこの男の眼附が多少異様にかがやいていたと云う事に気がついた。何だか大変感じている。これが当人の云う如くシキを出られない為か、又は今云い掛けたおれもの後へ出て来る話の為か、一寸分り悪いが、何しろ妙な眼だった。しかもこの眼が鋭く自分を見詰めている。そうしてその鋭いうちに、注7懐旧と云うのか、注8沈吟と云うのか、何だか、人を引き付けるなつかしみがあつた。この黒い坑の中で、人気はこの坑夫だけで、この坑夫は今や眼だけである。(カ)自分の精神の全部はたちまちこの眼球に吸い付けられた。そうして彼の云う事を、とっくり聞いた。

(出典：夏目漱石「坑夫」新潮文庫)

(注) 1 筒袖：和服で袂がない筒形の袖。 2 羅宇：煙管の雁首と吸い口をつなぐ竹の管。

3 雁首：煙管の頭。 4 熱誠：まごころが強くこもっていること。 5 常住坐臥：いつも。

6 シキ：炭坑の坑内。 7 懐旧：昔のことをなつかしく思い出すこと。 8 沈吟：思いにふけること。

問題 14 次の文は本文の一部である。挿入場所として最も適当な場所を一つ選べ。

自分の様子を見て、故意に俵の上へ腰を卸したんでないと見極めた語調である。

① A ② B ③ C ④ D ⑤ E

問題 15 下線部 (ア)「ただの坑夫ではない」とあるが、青年はどのように感じているのか。最も適切なものを一つ選べ。

- ① 他の坑夫と全く異なる筋骨隆々とした様子を見て、他の坑夫と違ってこの男なら自分を助けてくれそうだと期待している。
- ② 他の坑夫と異なる話し方をしたことから、他の坑夫と違って階級が上の人なのではないかと思ひ、姿勢を正そうとしている。
- ③ 急に怒鳴られたうえ、鋭い声や体格、眼光から、今まで見てきた坑夫とは違う男の雰囲気伝わり、つかみどころのない恐ろしさを感じている。
- ④ 俵に腰かけるという禁忌を犯してしまったことが恐ろしくなり、これから何が起ころのかを心配している。
- ⑤ 外見上の特色から男のおそろしさを感じ取るとともに、他の坑夫とは明らかに異なる知性や教養を感じ取っている。

問題 16 下線部 (イ)「それでも別に耻かしいとも思わなかった」とあるが、その理由として最も適切なものを一つ選べ。

- ① 一人で出ないということは、自分で公言したことではなく、男の「送り出してやるから待ってろ」という命令だから。
- ② 「死んでも一人で出てみせる」という決心は、誰かに話したわけではなく、自分が単に心の中で発したことだったから。
- ③ 男が出口まで送り出してくれるということに安心し、「死んでも一人で出てみせる」という決心のことなど忘れてしまったから。
- ④ 「一人で出る気がなくなった」気持ちは公言したことではないので、誰に対しても耻かしく思う必要はないと開き直れたから。
- ⑤ 案内人とはぐれたという事実を公言したことで、男から助けをもらうことができたため、言っ
てよかったと心から思っているから。

問題 17 (ウ)に入る語句として最も適切なものを一つ選べ。

- ① 恐ろしいんだ ② 自分は違うんだ ③ 死ぬんだ
- ④ 話したくないんだ ⑤ 働きたくないんだ

問題 18 (エ)に入る語句として最も適切なものを一つ選べ。

- ① 壮大な ② 武骨な ③ 傲慢な ④ 上品な ⑤ 悲愴な

問題 19 (オ)に入る語句として最も適切なものを一つ選べ。

- ① 君も事情を話ししてほしい ② 君の力になりたいと思う
- ③ 君もこんな処ところにはいけない ④ 君もしっかり生きるがよい
- ⑤ 君も話してくれない方がいい

問題 20 下線部 (カ)「自分の精神の全部はたちまちこの眼球に吸い付けられた」とあるが、このときの青年の様子として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 坑夫の事情があまりにも自分と異なるので、坑夫のことがもっと知りたいと興味を引き立てられている。
- ② 坑夫の知性あふれる話し方とその内容に触れ、その言葉と雰囲気ひに惹きつけられて他のことなど眼に入らない様子。
- ③ 自分がなぜこの炭坑にたどり着いたのか過去について話す坑夫の迫力に圧倒されて、眼を離すことができない様子。
- ④ 坑夫の教養ある話に引き込まれて知性が刺激され、もっと話を聞きたいと思いつつも恐ろしさに震えている様子。
- ⑤ 坑夫の眼附のかがやきから伝わる不思議な力に圧倒され、話の内容など何も耳に入っていない様子。

問題 21 次のうち本文の内容に合致する記述として正しいものを一つ選べ。

- ① 青年は、小柄であるものの体つきがしっかりとて眼光鋭い坑夫に出会った。
- ② 最初のうち青年は坑夫にやや反抗的な態度を取っていたが、次第に打ち解けていった。
- ③ 坑夫が煙管を吹く様子を、青年は期待や不安を抱えつつ見つめていた。
- ④ 青年は、すべてではないが自分がなぜ炭坑に来たのかを坑夫に話した。
- ⑤ 坑夫は自分の事情を話したくはなかったが、青年にせがまれて話すことになった。